

令和7年度（一社）神奈川県建築士会横浜支部総会支部長挨拶

（一社）神奈川県建築士会横浜支部 支部長 渡邊一郎



支部会員の皆様には連休直後のお忙しい時にも拘らず総会に出席頂きありがとうございます。来賓の横浜市建築局長指導部長小林様には休日にも関わらず御臨席賜り、感謝申し上げます。

建築士会は建築士法に規定されており

『建築士の品位の保持及びその業務の進歩改善に資するため会員の指導及び連絡に関する事務を行うことを目的とする。』

となっております。支部活動はその目的を念頭に4委員会中心に活動させて頂きました。また昨年

11月は支部創設30周年記念事業を開催しました。お陰様で多くの参加者が募り、みなとみらい21地区パブリックアートを巡るツアーと記念懇親会を開催し大いに盛り上がりました。詳細につきましては神奈川県建築士会横浜支部HPをご覧ください。ご理解頂きました協賛金が順調に集まり、本会計に負担をかけることなく、余った分を横浜市へ寄付させて頂きました。

建築士会は資格取得者の団体です。大半が設計業務の方ですが、私のような施工会社、他にも行政、教育等々様々な業種の集りです。設計、施工の団体の礎にあるのが建築士会です。皆さんには誇りを持って頂きたいと思います。また大きな業務として資格試験の運営があります。建築士試験制度変更で一級建築士受験者数の大幅増加、それに伴う試験監理官の確保が大きな課題となりましたが、昨年は皆様のご協力で無事に終えました。

我々は国内最大の基礎自治体の横浜市内で建築士として活躍出来ます。人口377万の都市、今後老朽化する公共建築物の建て替え、リフォームに活躍の場があり、新設の公共建築物計画は減らないでしょう。基礎自治体は小中学校の校舎の整備は今後多く発注されるでしょう。大阪市が260万人、名古屋市で230万人、東京23区で一番人口の多い区で世田谷市の95万人、横浜市は全国の自治体が注目されており、そこで建築士の皆さんの実力が発揮出来ることは夢ある事と思います。多に実力を発揮して下さい。また民間の計画は多数あり大型再開発、その周辺地域の整備等、恐らく東京都に次ぎ建築士活躍の場は無限にあるでしょう。また横浜市役所では建築主事資格取得の必須条件の一級建築士取得者が減少していると伺っております。県庁や他の県内市町村もその傾向です。主事は市町村または都道府県の吏員のうち、建築基準適合判定資格者検定に合格し、国土交通省に建築基準法第4条の規定により建築確認を行うため地方公共団体に設置される公務員であり、一級建築士資格者が必要です。今後の横浜市の様々な建築行政遂行のために市内の一級建築士取得者増加は緊急を要する課題です。また工事発注者としての営繕工事实務、建設行政指導の立場から横浜市技術系職員の一級建築士取得は重要です。受注業者への的確な指示、品質管理等幅広い知識、

更に新築、改修工事等のきめ細かい工程管理知識向上は監理される側にとって極めて重要です。然しながら一級建築士試験は難度が高く、合格率が低いのが現状です。永続的に円滑な建築行政運営を図る上に横浜市役所様へは建築系職員への一級建築士取得への講習費の補助、取得した場合の手当、主事に付きましては責任に見合った報酬設定をお願いします。これは民間では常識です。どうかご理解頂きたいと思います。

業種問わず建築士にとっては経験したことのない時代を迎えつつ、建築士会活動を通し、異業種の皆様と議論の場が必要と考えます。また本会、支部問わず共通の悩みは会員の減少です。会員減少は財政悪化につながります。引き続き賛助会員へは協力をお願いする所存です。支部の運営は活動委員様のボランティア、言わば手弁当で行っております。仕事を持つ会員の空き時間で賄っており、手の行き届かない点につきましては温かい理解頂くと同時に支部活動に協力されている会員の皆様には感謝申し上げます。厳しい経済環境下でも横浜支部会員には建築士として襟を正し、業務に打ち込むことが重要です。

終りに本年が支部会員の皆様が今年は大きく飛躍されることを祈念し挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございます。

一般社団法人神奈川県建築士会横浜支部
「令和7年度 第32回通常総会」議事録

一般社団法人神奈川県建築士会横浜支部
「令和7年度 第32回通常総会」議事録
日時：令和7年5月10日（土）14:00～
場所：神奈川県建設会館 2階講堂

第一部 総会

1. 支部長挨拶 渡邊 一郎
2. 議長選出 議長 渡邊 一郎
3. 議案

令和7年度 議案

- 1) 第1号議案 令和6年度事業報告

総務委員会	報告者	奈良 尚登
厚生委員会	報告者	高橋 伸廣
技術・情報委員会	報告者	風呂迫泰寛
広報委員会	報告者	白井 崇雄

- 2) 第2号議案 令和6年度収支決算（案）・監査報告

会計	報告者	吉岡 徹
監査報告	報告者	金子 修司

質疑応答：質問者なし。 拍手にて承認。

- 3) 第3号議案 令和7年度事業計画（案）

総務委員会（総括）	提案者	奈良 尚登
-----------	-----	-------

- 4) 第4号議案 令和7年度収支予算（案）

会計	報告者	吉岡 徹
----	-----	------

- 5) 第5号議案 令和7-8年度役員（案）及び神奈川県建築士会横浜支部組織図（案）

質疑応答：質問者なし。 拍手にて承認。

4. 来賓紹介

小林 達 横浜市建築局建築指導部長



第二部 記念講演会

「暮らしの風景の見つけかた、楽しみかた、伝えかた」

令和7年5月10日（土）15:00～16:30

講師：石川 初 先生



慶應義塾大学環境情報学部教授。博士（学術）。

東京農業大学農学部造園学科卒業。鹿島建設建築設計本部、株式会社ランドスケープデザイン設計部を経て2015年より現職。

講演のメッセージ

フィールドワークを通して何気ない日常の生活の風景の美しさを見だし、それを言葉にし、また伝えていくこと。研究室の学生たちと一緒に取り組んでいる「建設」とは異なるランドスケープのデザインの方法をご紹介します。

主催：（一社）神奈川県建築士会 横浜支部

後援：横浜市建築局



(一社) 神奈川県建築士会横浜支部 令和 7 年度 第 32 回通常総会

記念講演「暮らしの風景の見つけ方、楽しみかた、伝えかた」を聞いて

講 師：石川 初 慶應義塾大学環境情報学部教授 博士 (学術)

横浜支部：小渡佳代子

新緑の候、ちょっとしたまち歩きでも夢中になると止まって観たり、作業に参加したり、時には泊ってみると日本の風景を感じるこの頃の「私」ですから、切り撮られたスライド写真に臨場感あふれる素敵なお講演がナレーションのような効果を生み、ドキュメンタリー映画鑑賞するように心が吸い込まれました。リアルなお講演ありがとうございました。

【フィールドワーク】は準備 6、現場 2、検証 2 と準備に時間がかると言われています。スマホや DX を取り込んでリアルタイムの分析もなるほどと伝えたいことが沁みてきます。

非常勤講師をしていた約 20 年、IT で検索し提出するレポートや写真、確かに美しいが魅力を感じられなく退職を機に卒業。データ的には外れ値ですが貴重と自負しています。

【講演のメッセージ】ランドスケープの景色、特にマンセル値と色見本帳の色とが自然光の中で異なりフィールドの五感への刺激やエピソードの大切さを感じます。実際には人が可視化できる範囲外の世界が自然にあり脱温暖化で地球や宇宙を意識せざるをえない時代の中、普遍的な緯度経度、日本の風景、地形、光や水、緑の小さな環境に心弾ませ、日の出や日の入り、四季の変化に感じ、夏の心地よい風のながれ、豊かな水の恵みや光輝く水面は感性を揺さぶられます。

私のフィールドワークの原点は「日本の住宅は兎小屋」と言われた頃、北米西海岸の分譲住宅地を調査する機会に恵まれた。'86 年のことです。シアトルの分譲地と自分の住む住宅の大きさ、長時間労働、女性の役割分担、地域社会の暮らし方を比較検証し、'88 年の国際女性建築会議国際会議 (UIFA) でパネル発表以来学会の海外研修など、アフリカ、東欧、北欧、欧州、東南アジア、実にコロナ禍まで 30 数年女性学研究を軸にフィールドワークで「歴史、戦争、宗教、植民地、地政学等」、「えっ」そうだったの、ちょっと違うのではないの、そのデータは比較できないではないのか等、また、海外から同時多発的に報道される異常気象による山火事や豪雨や土砂崩れ災害に驚かされます。データで表現されることが多い最近、世界の順位が落ちたとか最下位になってしまったとか。同じ土俵でないので錯覚しやすい。むしろ日本を意識しながらクライアントの要望に応える形で実証検証してきた。データがない年齢になり、やっと、地域の暮らしを楽しんでいる。

省エネ法に絡む建築関係のパッケージが国際基準をクリアーに働き方改革等、国の政策や法律が施行されてきた令和 7 年 4 月、タイムリーに総会記念講演に初めて参加しました。海、河川、山、日本の特徴ある里山の風景は、次世代につなげる超高齢社会のコミュニティ再構想などのヒントも多面的にいただきました。色々ご準備いただいた石川先生のご講演に改めて感謝申し上げます。合わせて、ご講演を企画いただいた横浜支部の関係者の方々にも感謝申し上げます。

ウサギ小屋と言われる住宅が立ち並ぶ暮らしの風景には工夫がいっぱいです。



東

歩道は狭いので街路樹が並ぶが自転車は歩道を走り車道に出たりしています。

ヘルメット着用やスマホは罰則切符が切られるとか。時間帯によって車が渋滞。街の緑はCO₂を吸収、窒素化合物は吸ってくれない。



西

街路樹と外灯（ソーラー）の脇から山並み（土砂崩れに注意）を望み道祖神や祠も多い山に夕日は空を真っ赤に染め沈んでいきます。四季を感じる山並みです。相模湾に繋がる川に面した丘陵地、昔は横浜のチベットと言われたとか。



北

ネットフェンスで仕切られたゴミ回収場の下は美しい遊水池です。

このネットフェンスがなければどんなに美しいかと運河と共存するオランダを思い出します。夏は地域の空気が冷やされて住宅の窓の配置で風を感じます。



遊水池には鷺のカップルやカモの親子、鳥の鳴き声、カエル、タヌキ、ハクビシン等、自然との共生です。

ゴミはカラスとの知恵比べ、ルールも時々変えています。